

# アライグマ問題をどう考えますか？

アライグマと聞くと、どんな印象をお持ちでしょうか？アニメに出てくるかわいい動物、それとも、畑を荒らす悪いやつ、いろんな印象があると思います。

同じ動物でも、多様な側面があります。幼いうちはかわいくて従順でも、成長するにつれ、自立心も芽生え、状況によっては凶暴な側面を見せる傾向が多くの動物に見られます。（人間だってそうですね。）特に、アライグマは攻撃性が強く、人になつきにくいようです。犬や猫のように、人間が長い時間をかけて品種改良し、試行錯誤のすえに飼育やしつけの方法を確立した動物もありますが、そうでない動物は安易には飼えません。（犬猫でも、適切に飼わないと大変です。）

今、放棄され野生化したアライグマが増殖し、全国各地で問題になっています。手先が器用で身体能力が高い雑食性のアライグマは、人間に対する農業や衛生上の被害に加え、日本在来の小鳥や動物にとっても大きな脅威を及ぼすことが心配されています。日本は島国ですから、大陸とは離れた独自の生態系の中で、生物たちは進化してきました。大陸からの外敵に対応できない動物も多いのです。ですから、特に日本は、外来生物への注意が必要な国なのです。

生物は状況が許せば、どんどん増えます。アライグマは毎年4～5頭の子供を産みます。増殖能力の高い外来種の影響を抑えるには、初期の段階で適切に駆除してしまふことが必要です。（有害な化学物質も問題ですが、化学物質は自然には増えません。その意味では、自分で増えていく外来生物の問題は、有害物質の汚染以上に深刻になる可能性もあります。）

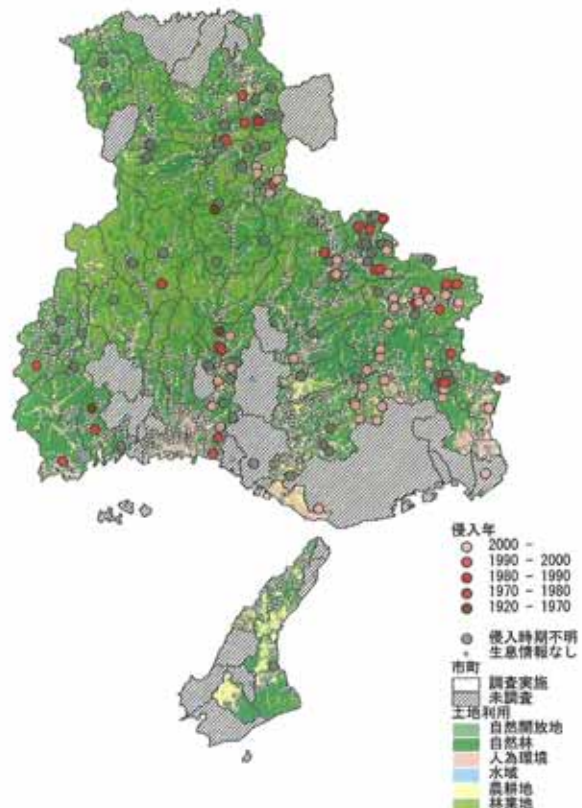
人間の財産はまだしも、生態系全体を外来種の影響から守りきるのは困難です。アライグマに罪はないですが、人間も動物も罪のない他の生物を殺さずに生きてはいけません。食べるための牛や豚、農作物を守るためのシカやイノシシ、みんなそうです。そして、アライグマも日本の生態系に影響を与えず生きていくことはないでしょう。

島国とはいえ、日本の在来の生物たちも、多くの天敵や競争者との戦いに苦しみながら共存してきたのは事実です。人間も獣害などの対策に苦しみながらも、生物多様性や地域の生態系を保全する努力も進めています。そのような中で、また新たに人為的に移入された天敵や競争者へどう対応していくのか？人間だけでなく日本の生態系の全てを賭けた意思決定が必要です。感情論ではなく、正しい情報に基づいた冷静な判断が求められています。

（自然・環境マネジメント研究部 坂田宏志）



[写真提供 岩田 路氏]



アライグマの分布と侵入時期  
(2003年度人と自然の博物館調査)